【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】平成24年6月21日(2012.6.21)

【公表番号】特表2011-518559(P2011-518559A)
【公表日】平成23年6月30日(2011.6.30)
【年通号数】公開・登録公報2011-026
【出願番号】特願2011-506221(P2011-506221)
【国際特許分類】
Ａ２３Ｋ　 1/16　　(2006.01)
Ａ２３Ｋ　 1/18　　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/7088　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　38/00　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　31/00　　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　45/00　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　31/04　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　33/14　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　31/12　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ２３Ｋ　 1/16　　３０３Ｄ
Ａ２３Ｋ　 1/18　　１０２Ａ
Ａ２３Ｋ　 1/18　　１０２Ｂ
Ａ６１Ｋ　31/7088
Ａ６１Ｋ　37/02
Ａ６１Ｐ　31/00
Ａ６１Ｋ　45/00
Ａ６１Ｐ　31/04
Ａ６１Ｐ　33/14
Ａ６１Ｐ　31/12

【手続補正書】
【提出日】平成24年4月26日(2012.4.26)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
通常の飼料成分を含んでなる飼料組成物であって、ペプチドグリカンおよびヌクレオチドを含んでなることを特徴とし、ペプチドグリカンが、０．００１－０．０１重量％の範囲である、飼料組成物。
【請求項２】
上記ペプチドグリカンが、０．００１－０．００５重量％、好ましくは、０．００５重量％の範囲である、請求項１に記載の飼料組成物。
【請求項３】
ヌクレオチドが、０．０５％－１重量％、好ましくは０．１－０．５重量％、最も好ましくは０．２重量％の範囲である、請求項１に記載の飼料組成物。
【請求項４】
ペプチドグリカンに対するヌクレオチドの重量比が、４より大きく、更に好ましくは２

０より大きく、更に好ましくは４０より大きい、請求項１に記載の飼料組成物。
【請求項５】
ペプチドグリカンに対するヌクレオチドの重量比が、４０より大きい、請求項１に記載の飼料組成物。
【請求項６】
ペプチドグリカンに対するヌクレオチドの重量比が、２０より大きく、かつペプチドグリカンの量が、飼料組成物の重量の０．００１－０．０１％の範囲である、請求項１に記載の飼料組成物。
【請求項７】
ペプチドグリカンに対するヌクレオチドの重量比が、４０より大きく、かつペプチドグリカンの量が、飼料組成物の重量の０．００１－０．０１％の範囲である、請求項６に記載の飼料組成物。
【請求項８】
ペプチドグリカンに対するヌクレオチドの重量比が、２０より大きく、かつペプチドグリカンの量が、飼料組成物の重量に対して０．０１％未満であり、好ましくは約０．０５以下である、請求項６に記載の飼料組成物。
【請求項９】
ペプチドグリカンに対するヌクレオチドの重量比が、４０より大きく、かつペプチドグリカンの量が、飼料組成物の重量に対して０．０１％未満であり、好ましくは約０．００５％以下である、請求項６に記載の飼料組成物。
【請求項１０】
ヌクレオチドの量が飼料組成物の総重量の約０．２％であり、ペプチドグリカンの量が約０．００５％である、請求項１に記載の飼料組成物。
【請求項１１】
ヌクレオチドが、アデノシン一リン酸、シチジン一リン酸、グアノシン一リン酸、ウリジン一リン酸、およびチミジン一リン酸からなる群から選択される、請求項１～１０のいずれか一項に記載の飼料組成物。
【請求項１２】
組成物が、更に他の免疫刺激および／または抗炎症成分を含んでなる、請求項１～１１のいずれか一項に記載の飼料組成物。
【請求項１３】
通常の飼料成分、ヌクレオチド、およびペプチドグリカンを含んでなる、動物の感染性疾患の予防および／もしくは処置、並び／または疾患の症状の軽減のための、医薬組成物、栄養組成物、または機能性飼料。
【請求項１４】
上記ペプチドグリカンが、０．００１－０．０１重量％、好ましくは０．００１－０．００５重量％、最も好ましくは０．００５重量％の範囲である、請求項１３に記載の医薬組成物、栄養組成物、または機能性飼料。
【請求項１５】
ヌクレオチドが、０．０５重量％－１重量％、好ましくは０．１－０．５重量％、最も好ましくは０．２重量％の範囲である、請求項１３に記載の医薬組成物、栄養組成物、または機能性飼料。
【請求項１６】
ペプチドグリカンに対するヌクレオチドの重量比が、４より大きく、更に好ましくは２０より大きく、更に好ましくは４０より大きい、請求項１３に記載の医薬組成物、栄養組成物、または機能性飼料。
【請求項１７】
ペプチドグリカンに対するヌクレオチドの重量比が、４０より大きい、請求項１３に記載の医薬組成物、栄養組成物、または機能性飼料。
【請求項１８】

ペプチドグリカンに対するヌクレオチドの重量比が、２０より大きく、かつペプチドグリカンの量が飼料組成物の重量の０．００１－０．０１％の範囲である、請求項１３に記載の医薬組成物、栄養組成物、または機能性飼料。
【請求項１９】
ペプチドグリカンに対するヌクレオチドの重量比が、４０より大きく、かつペプチドグリカンの量が飼料組成物の重量の０．００１－０．０１％の範囲である、請求項１８に記載の医薬組成物、栄養組成物、または機能性飼料。
【請求項２０】
ペプチドグリカンに対するヌクレオチドの重量比が、４０より大きく、かつペプチドグリカンの量が飼料組成物の重量に対して０．０１％未満であり、好ましくは約０．００５％以下である、請求項１８に記載の医薬組成物、栄養組成物、または機能性飼料。
【請求項２１】
ヌクレオチドの量が飼料組成物の総重量の約０．２％であり、かつペプチドグリカンの量が約０．００５％である、請求項１３に記載の医薬組成物、栄養組成物、または機能性飼料。
【請求項２２】
ヌクレオチドが、アデノシン一リン酸、シチジン一リン酸、グアノシン一リン酸、ウリジン一リン酸、およびチミジン一リン酸からなる群から選択される、請求項１３～２１のいずれか一項に記載の医薬組成物、栄養組成物、または機能性飼料。
【請求項２３】
組成物が、更に他の免疫刺激および／または抗炎症成分を含んでなる、請求項１３～２１のいずれか一項に記載の医薬組成物、栄養組成物、または機能性飼料。
【請求項２４】
動物の感染性疾患に関連する症状を防止または軽減するための機能性飼料組成物である、請求項１３～２３のいずれか一項に記載の医薬組成物、栄養組成物、または機能性飼料。
【請求項２５】
感染体に攻撃された魚の生存および／または成長を増加させるための、請求項１３～２３のいずれか一項に記載の医薬組成物、栄養組成物、または機能性飼料。
【請求項２６】
感染が、Piscirikettsia salmonis、Moritella viscosa、Francisella種，マウス・ロット、連鎖球菌感染症、ビブリオ感染症のような細菌、膵臓疾患、ＮＳＡＶ、鰓炎症（GI）、心臓・骨格筋炎症（HSMI）、サケ伝染性貧血症（ISA）ウイルス、サプロレグニオシス、およびウミシラミ感染症によって引き起こされる、請求項１３～２５のいずれか一項に記載の医薬組成物、栄養組成物、または機能性飼料。
【請求項２７】
動物が、水生動物である、請求項１３～２６のいずれか一項に記載の医薬組成物、栄養組成物、または機能性飼料。
【請求項２８】
水生動物が、魚類、甲殻類または軟体動物である、請求項２７に記載の医薬組成物、栄養組成物、または機能性飼料。
【請求項２９】
魚類が、サケ、カレイ、または任意の他の養殖可能な魚種である、請求項２８に記載の医薬組成物、栄養組成物、または機能性飼料。
【請求項３０】
魚類が、大西洋サケSalmo salarである、請求項２９に記載の医薬組成物、栄養組成物、または機能性飼料。
【請求項３１】
動物の感染性疾患に関連する症状を防止または軽減するための、請求項１３に記載の医薬組成物、栄養組成物、または機能性飼料。

【請求項３２】
感染後の効果的回復および／または感染による抗生物質処置のための、および／または再感染の危険を軽減するための、請求項１３に記載の医薬組成物、栄養組成物、または機能性飼料。
【請求項３３】
抗生物質と組み合わせたおよび／または抗生物質処置の前の感染症の改良処置のための、請求項１３に記載の医薬組成物、栄養組成物、または機能性飼料。
【請求項３４】
感染症に罹りやすい魚類の給餌方法であって、請求項１～１２のいずれか一項に記載の組成物を、感染体に攻撃される前の期間、感染中または魚が感染してしまった後に魚に供給することを特徴とする、方法。
【請求項３５】
組成物を感染前の１～１２週間、更に好ましくは２～６週間、最も好ましくは４週間の時期に給餌する、請求項３４に記載の方法。
【請求項３６】
魚にヌクレオチドを更に含んでなる通常の飼料組成物を所定期間給餌した後、請求項１～５のいずれか一項に記載の組成物を給餌する、請求項３４に記載の方法。
【請求項３７】
ヌクレオチドを更に含んでなる飼料組成物を１～８週間、好ましくは２～４週間、最も好ましくは３週間給餌する、請求項３６に記載の方法。
【請求項３８】
請求項１～１２のいずれか一項に記載の飼料組成物を１～１２週間、好ましくは１週間給餌する、請求項３４～３７のいずれか一項に記載の方法。
【請求項３９】
感染が、Piscirikettsia salmonis、Moritella viscosa、Francisella種，マウス・ロット、連鎖球菌感染症、ビブリオ感染症のような細菌、膵臓疾患、ＮＳＡＶ、鰓炎症（GI）、心臓・骨格筋炎症（HSMI）、サケ伝染性貧血症（ISA）ウイルス、サプロレグニオシス、およびウミシラミ感染症によって引き起こされる、請求項３４～３８のいずれか一項に記載の方法。